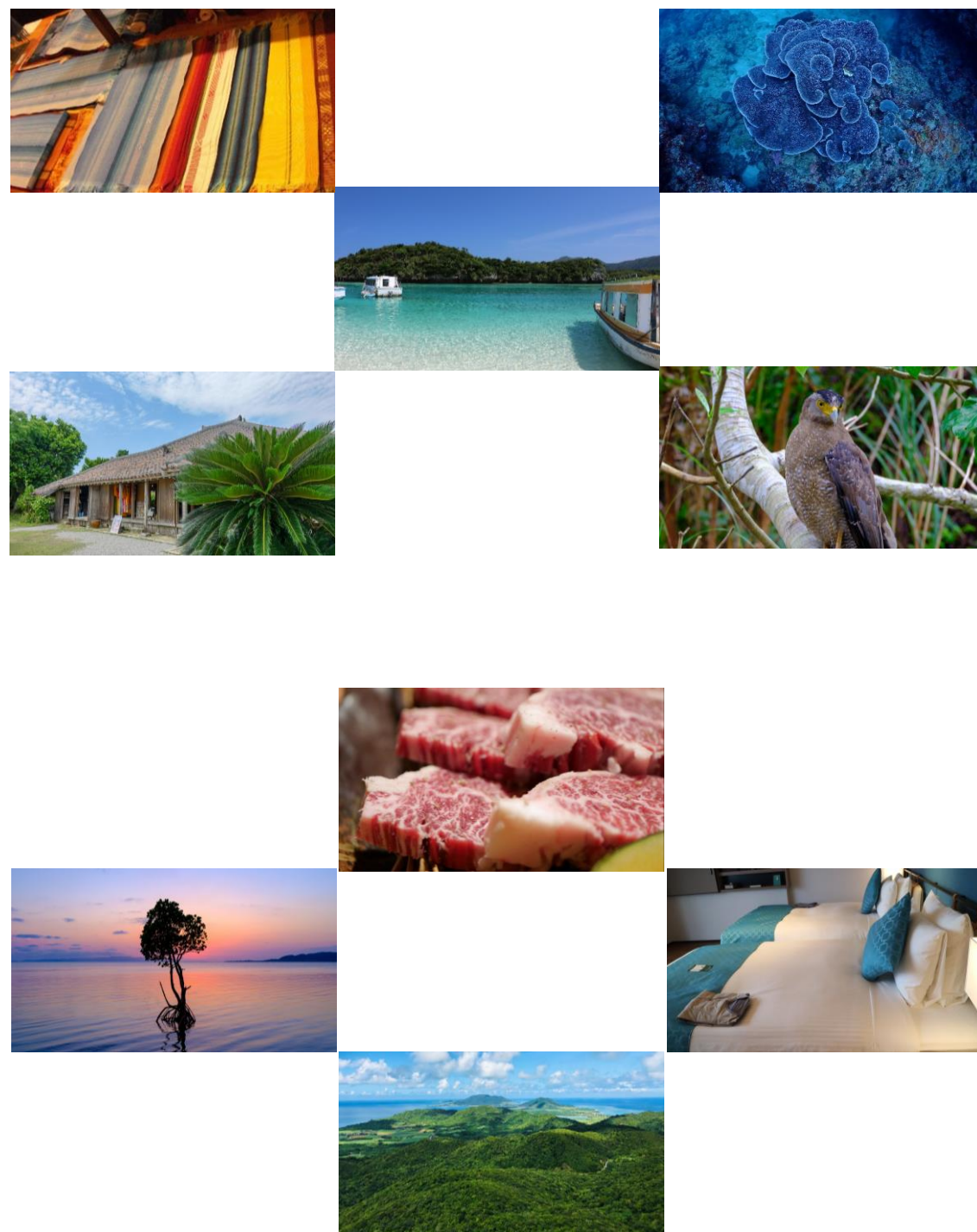


私たちの観光資源



第2次石垣市観光基本計画 概要版

編集・発行 石垣市企画部観光文化課
〒907-8501 沖縄県石垣市字真栄里672番地
TEL:0980-82-1535（直通） FAX:0980-82-1911
発行年月：令和4年3月

人種や国籍などに拠らないあらゆる人が交流する平和と自由を体現する場所
世界が認める優れた自然・文化的価値を有する場所

第2次
石垣市観光基本計画
概要版



ISHIGAKI TOURISM STRATEGY 2022 - 2031

計画策定の意義

近年、社会の国際化や高度情報化などに伴って、観光を取り巻く環境は大きく変化しており、旅行者のニーズや価値観は多様化しています。そのような中、突如、猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は、一方でテレワークの推進やデジタル化といった社会構造の変化を後押しし、地方への人の流れを加速する契機となっています。

こうした社会の変化を的確に捉え、石垣市の魅力ある地域資源を活かし、観光関連団体や市民団体など、観光に関わる全ての関係者が連携・協働することにより、交流人口・関係人口の拡大とそれに伴う消費による観光を通じた経済活性化を図ることが重要です。

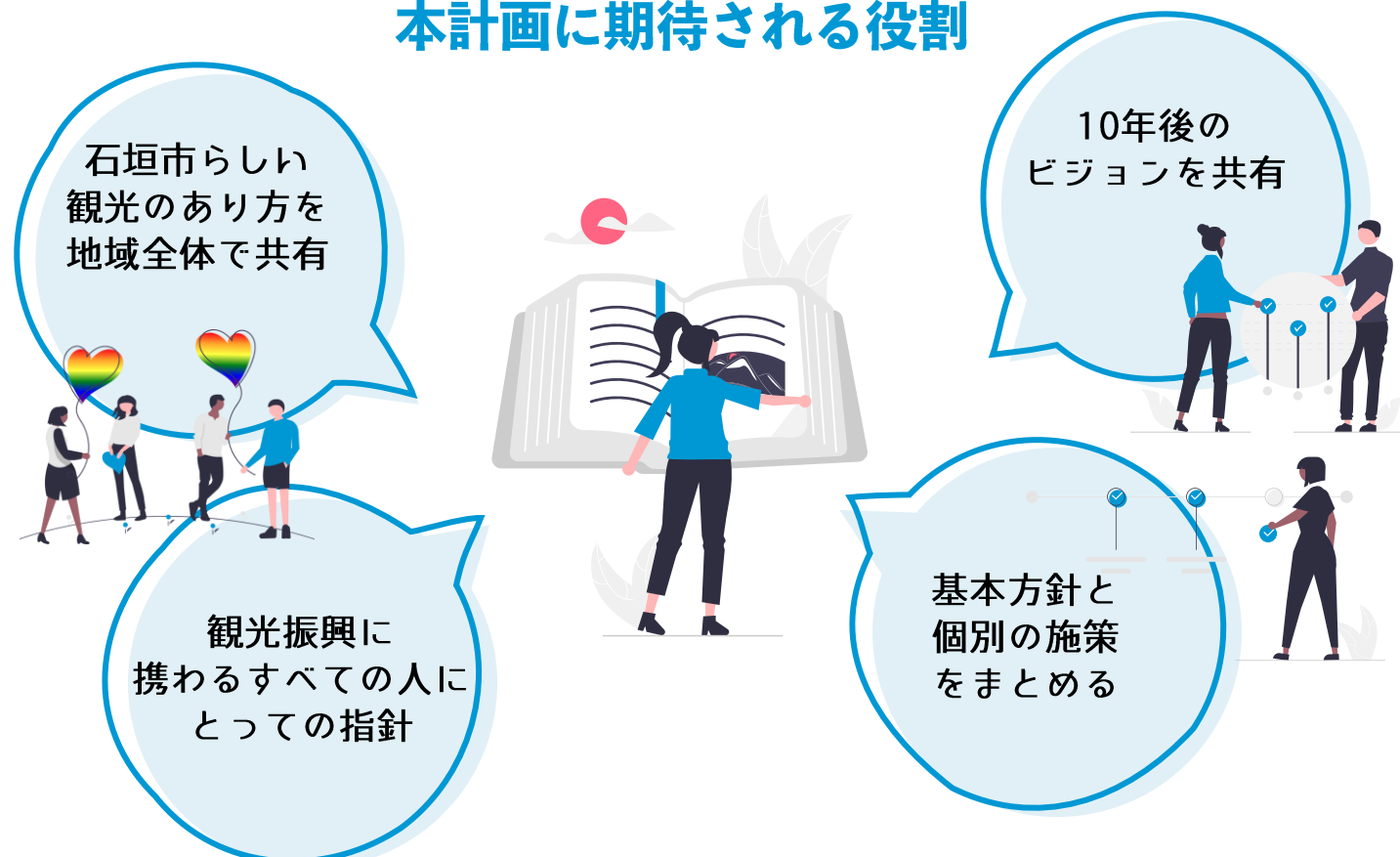
また、新型コロナウイルス感染症により大打撃を受けた観光産業を再び活性化するためには、ウィズコロナ・アフターコロナと回復の段階を見据えながら、石垣市に相応しい観光振興の方向性を明確にすることが必要です。

以上のことから、本市では、交流人口・関係人口の拡大により地域経済を活性化し、持続可能なまちづくりを実現するとともに、石垣島の八重山観光の拠点としての位置付けをより明確にし、役割を今後も担っていくため、そしてSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた取組に沿うものとして、本計画を策定します。

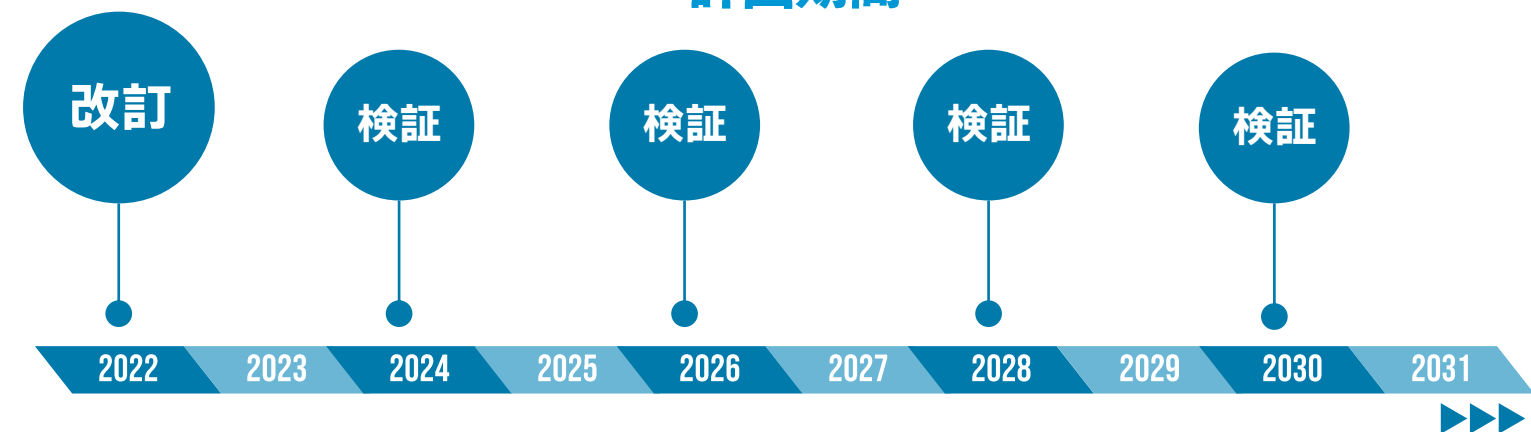
計画の位置付け



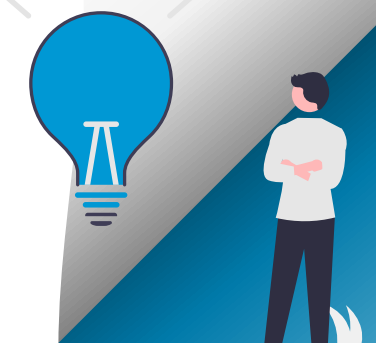
本計画に期待される役割



計画期間



コロナからの復興フェーズに
逐次対応できるよう、
第1次計画や一般的な行政計画に比べ、
高頻度で見直しを行います



観光を取りまく近年の社会情勢



本市の観光産業の現状

宿泊業

単価向上に向けた付加価値の向上、連泊の誘導による泊数の向上に努めています。また、脱プラや光害対策、リネン管理等においてSDGsを意識した取組を展開しています。コロナの影響で稼働率が一時激減しましたが、教育旅行の再開により復調の兆しもあるが、予断を許さない状況です。

依然として団体客も多く、クルーズ船寄港等、インバウンド最盛期には、観光インフラの容量超過により国内団体客等の受入に影響することも。個人客も増加し、自然・文化資源を楽しんでもらう際の事業者としてのコントロールが効きにくくマイナスな事象が発生しました。身体的距離を担保できるアウトドア系観光商材のニーズの高まり等新たな潮流への転機を感じています。



旅行業

観光施設

いわゆる白タクや半グレ等望ましくない事象への対策や、遊泳危険区域等地域の決まりごとの観光客への周知徹底等規制や誘導に課題を感じます。コロナが与えた影響は、来訪動向が読めず、常時雇用を維持することが難しく離職につながってしまうネガティブな側面もあれば、客数の減少により一人当たりへの接遇の丁寧さの向上というポジティブな側面もあります。



クルーズ船が入港すると急激な需要増にバス・タクシーの供給が追い付かない。さらに平時における運転手の人材不足も深刻である。温室効果ガス排出が避けられない業界だからこそ、環境負荷への配慮策を模索しています。コロナ以降、「安全・安心」が重要視され、添乗員付きの丁寧なツアーのニーズが高まっています。



運輸業

小売業

ツアー行程遵守のための商品の買いそびれや、リピーター獲得のための旅アト施策としてWEB販売を展開しています。島外において、原産地不当表示や類似商品などのトラブルが存在しています。コロナの影響により、消費動向や志向性が変化し、職場等でお土産として配ることに適している個包装菓子等のお土産の売上が激減し、家庭や食卓で楽しめる商品の売上げが増加しました。



主要インフラの整備状況

■空港■

沖縄県内で那覇空港に次いで利用者数が2番目となる新石垣空港は、国内の地方空港の中でも乗降客数が多い空港です。平成29(2017)年には、県内で那覇空港に次いで国際交通貨物の輸出入が直接できる「税関空港」に指定されています。新石垣空港施設の旅客ターミナルビルは、国内線及び国際線があり、手狭な点が指摘されていた国際線ターミナルは、令和4(2022)年3月にリニューアルオープンしました。

■港湾■

石垣港は昭和47(1972)年の本土復帰と同時に国の重要港湾に指定され、八重山諸島における人流、物流の交流拠点施設として発展を遂げてきました。主要施設の一つである新港地区においては、平成30(2018)年度に7万トン級のクルーズ船専用バースの暫定共用がなされ、その後令和2(2020)年度には20万トン級の大型クルーズ客船の受入が可能なバースが整備されました。また、附帯する施設として市街地からクルーズバースへのアクセスとなる臨港道路、CIQ機能を備えた旅客ターミナルビルの整備が現在進められています。

■道路網■

市内には市街地を起点に東海岸を通過して北部地区にある伊原間を結ぶ国道390号線と西海岸を通過して伊原間を結ぶ主要地方道石垣港伊原間線の2本の縦軸の主要幹線道路があります。さらに市街地と新石垣空港を最短で結ぶアクセス道路となる一般県道石垣空港線の整備も進められています。北部地区の平久保半島には豊かな自然と貴重な動植物の保全に配慮した環境共生型道路（エコロード）として市道平久保半島東線が供用されています。経済活動の中心地である市街地内については、東西に伸びる主要路線を中心に都市計画道路の整備が進められていて、特に令和3(2021)年度に開庁した石垣市役所新庁舎周辺では補助幹線道路網の構想に基づき今後整備が予定されています。



各種課題への対応状況

航空旅客

航空路線増便に向けた新石垣空港ターミナル整備の促進や石垣市観光交流協会、YVBと連携した誘客プロモーション活動に取り組みました。

宿泊許容量

新規宿泊施設の開業のほか既存宿泊施設の拡張が収容人数拡大を牽引しています。

観光関連人材の確保・育成

観光人材育成を目的とした市内の高校生を対象としたプロジェクト「Chura★I」を実施し、若い世代の人材育成に取り組みました。

個人消費額の増加

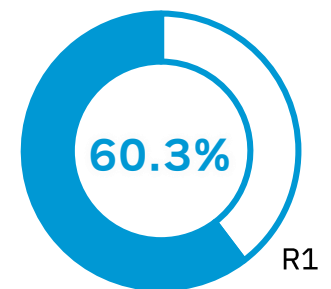
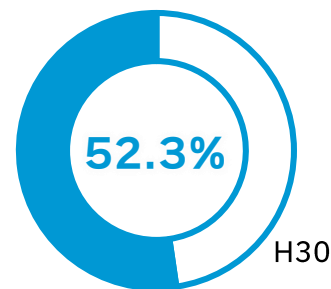
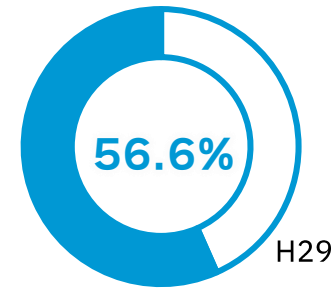
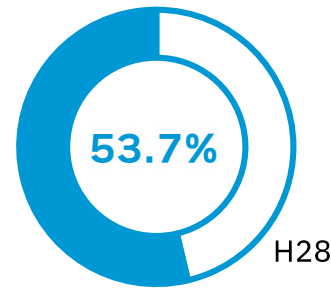
個人消費額を増加させるため、石垣らしい質の高いお土産品や飲食サービスの開発等について、飲食店や宿泊施設への呼びかけや働きかけを行いました。

島内波及の向上

島内での経済波及効果をより高めるため、地域資源を活用した商品開発から販売など6次産業化による域内調達率の向上に取り組みました。

柔軟な体制の構築

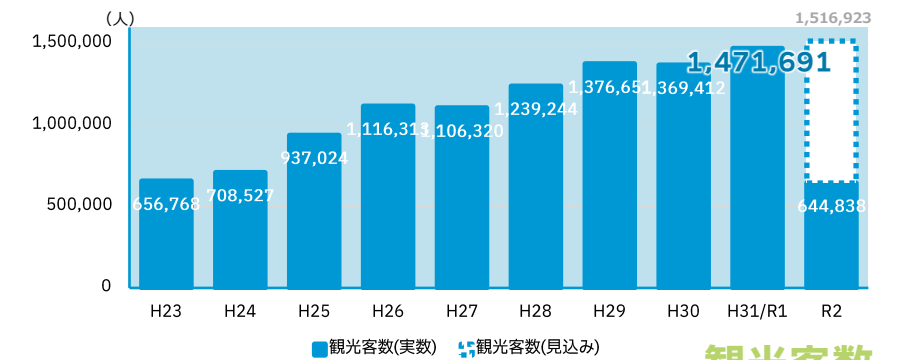
石垣市観光プラットフォーム会議を実施し、石垣市・観光交流協会・YVB等関連団体との連携を深め、市民にも広く参加いただき態勢強化に取り組みました。



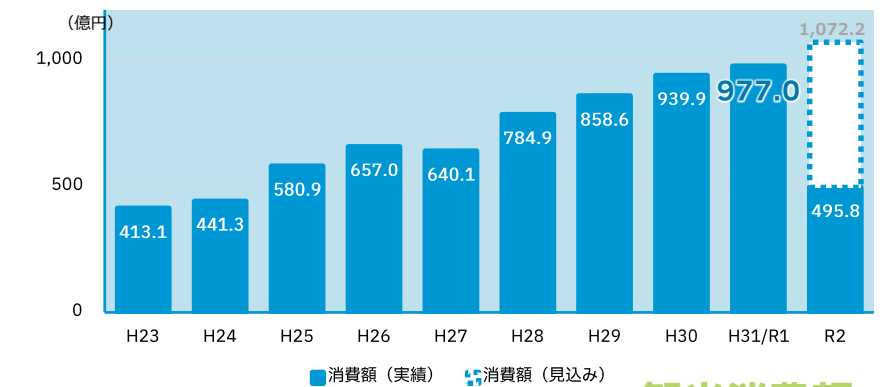
リピーター率

前計画の成果（コロナ蔓延前）			成果に関連する現況
観光消費額	977億円 (平成31/令和元年)	横ばい 未達成	目標値である1,050億円は未達成 新型コロナウイルスの影響を受ける前の水準を維持していれば達成できていた可能性がある
観光客数	147.2万人 (平成31/令和元年)	横ばい 未達成	令和2(2020)年目標値である150万人は未達成 新型コロナウイルスの影響を受ける前の水準を維持していれば達成できていた可能性がある 令和2(2020)年は64.4万人まで減少
クルーズ船での入域客数	25.1万人 (平成31/令和元年)	とても順調 達成	目標値である「クルーズ客船(国内外)での入域客数24万人以上」は達成 クルーズ客船寄港時のオーバーツーリズム対策が必要
空港国際線乗降客数	9.9万人 (平成31/令和元年)	とても順調 達成	平成29(2017)年に目標値である国際線乗降客数8万人を達成
リピーター率	6.03割 (平成31年/令和元年)	横ばい 未達成	平成31/令和元(2019)年のみ6割以上を達成しているが、目標値である「毎年6割以上のリピーターが訪れる観光地を目指す」は未達成
平均滞在日数	2.4泊 (平成31年/令和元年)	横ばい 未達成	目標値である「滞在泊数の平均値を3泊以上とし、さらに滞在泊数を伸ばすことに取り組む」は未達成
RAKUEN指標の活用	運用せず	-	具体的な指標の活用の検討には至らず

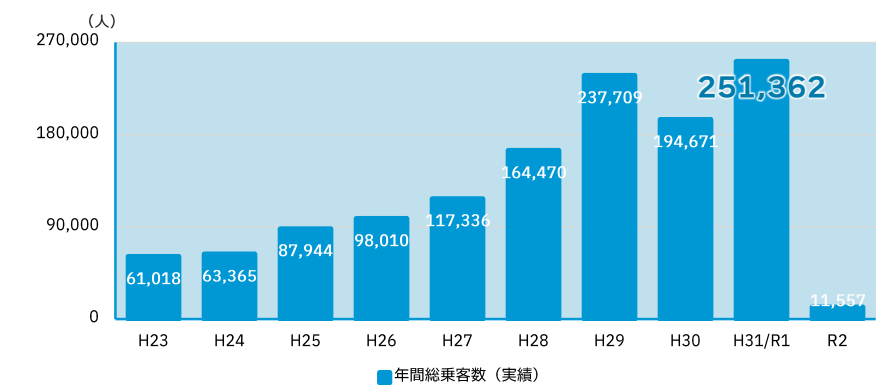
前計画の目標達成度合い



観光客数



観光消費額



クルーズ船での入域客数

SUMMARY

- ・コロナ以前までは多くの目標において堅調な推移を記録。
- ・リピーター率の継続的な達成や、平均滞在日数の延伸にさらなる向上の余地がある。
- ・経営的視点に基づくマネジメントが課題。

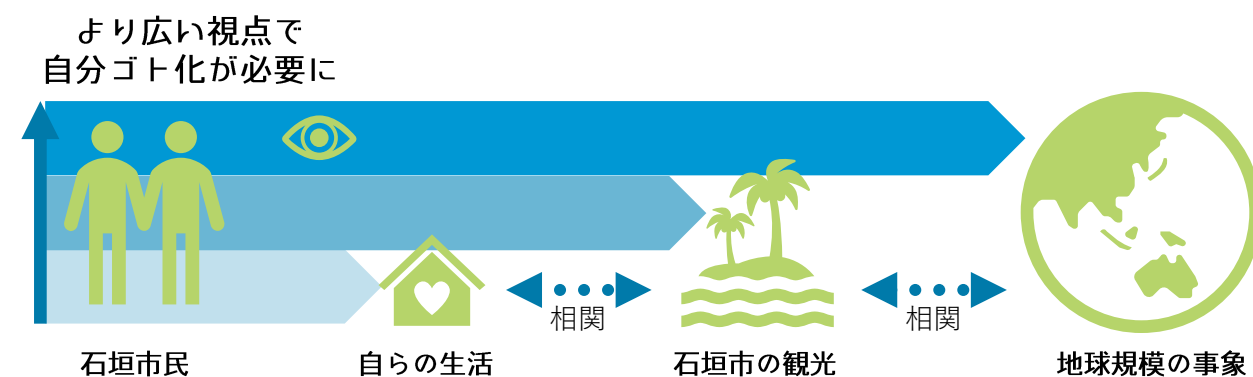
基本的な考え方

本計画においては、観光まちづくりを「地域が主体となって、自然、文化、歴史、産業、人材など、地域のあらゆる資源を活かすことによって、交流を振興し、活力あふれるまちを実現するための活動のこと」と定義し、人を呼び込むことを最終目的とする「観光の振興」ではなく、まちをより良く発展させることを最終目的に、達成手段として人を呼び込む「観光による振興」を基本的な考え方とします。つまり、まちを訪れる人々を資源の一つとして捉える考え方であり、これらを行政や観光関連事業者等のみならず、一般市民をはじめとしたまちに関わる多くのステークホルダーそれぞれが主体的に取り組んでいく必要があります。

また、本市は、平成9（1997）年11月1日に制定した「石垣市観光立市宣言」の中で、「観光は、命果報(めつがふ)を招く平和のかけはし」と謳い、「自然と文化を守り育てることを。交流を深め、高めあうことを。世界平和へつながる世(ゆう)とびあ・いしがきを。訪れる人びとと共に、わたしたちは誓います。」と誓いを立てました。四半世紀が経過しましたが、この宣言はまさに「観光まちづくり」を表すものであり、宣言に込めた私たちの観光まちづくりへの想いは今も変わらず色褪せることはありません。

そのような中、令和2（2020）年に起こった新型コロナウイルス感染症の世界規模での流行や毎年のように発生する異常気象や大規模災害など、観光を取り巻く状況はより地球の自然環境そのものや地球規模で起こる事象による影響を受け易くなっており、地域的な活動であっても地球全体的な視点での取組の重要性がより一層増していると認識をしています。

以上を踏まえ、良き考えを引き継ぎ、かつ新しい時代にも柔軟に対応した本市の観光まちづくりの指針となる本計画の策定にあたり、基本的な考え方を次ページの通り整理します。



理念と将来像

理念 （いつの世でも普遍的な“あるべき姿”）

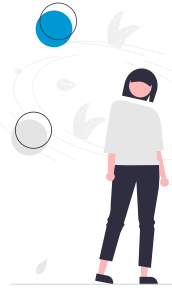
石垣島が、
世界が認める優れた自然・文化的価値を有する場
人種や国籍などに拠らないあらゆる人が交流する平和と自由を体現する場
として、いつの世までも地球上に存在し続けるために、
石垣市民は、地域発展の源泉としての豊かな自然と共生するために敬意を払い、先人から受け継いできた独自の文化を守り資源として育みます。さらに、アジアの交流結節点としての地理的優位性を活かしながら、地球市民としての責任を持って、地球的課題に同じ想いや共感を示す外からの来訪者と共にチャレンジし続けます。

将来像 （10年後の“あるべき姿”）

近年、観光客もツーリズムを構成する要素であると捉え、観光客が意識や行動に責任を持つことで、より良い観光地形成を行っていくという考え方に基づくこれからの観光の形として、レスポンスブルツーリズムへの注目が高まっています。市民と来訪者同士が尊重し理解することによるシンパシー(感情の同一性)や、お互いが幸福を感じられることは、本市の将来像の実現にとって、より一層重要になっています。
同様に、多様性(ダイバーシティ)の幅もより広がっており、包摂的(インクルーシブ)な精神の重要性は今まで以上に高まっています。
これらを踏まえ、本計画を通じ目指す10年後のあるべき姿として以下のとおり将来像を設定します。

持続可能でより良い社会を求めて世界中の人々がつながるまち
～石垣島の未来は地球の未来～

将来像の実現に向けた行動指針と施策体系



1

市民の幸福度向上と市の経済的発展に寄与するために取り組みます

2

環境、経済、社会文化の持続可能性を追求し実現するために取り組みます

3

成長の基盤に「質の高さ」を位置付けそれぞれの立場で質の向上に取り組めます

4

安全と安心を重要キーワードにブランドの維持、創造に取り組めます

5

①～④の実践をより良いものへと変革するための新たな技術は積極的に活用します

6

①～⑤に共感し共に行動してくれる全ての方々を大切なお客様として歓迎します

将来像

基本目標

基本方針

基本施策

環境分野

自然と共生し
健康で快適な生活のための
良好な環境を創る
観光まちづくり

1

温暖化対策、脱炭素へ向けた取組

1) 円滑なモビリティの導入

2) 多角的な脱炭素等の取組の促進

2

都市機能と自然資源、
生活環境との共存

3) 地域発展の源泉の保全
5) 観光施設の適正な管理

4) 魅力ある景観形成の実施と体制づくり

経済分野

市の発展に貢献し
市民生活が豊かになる
観光まちづくり

3

消費単価及び域内調達率の向上

6) 地域特性を活かした新たな魅力の掘り起こし
8) 観光による地域貢献の可視化
10) 観光客の島内滞在時間延伸

7) 顧客満足度の向上
9) 地域と観光の循環的発展の推進

4

新型コロナ禍からの経済回復

11) 変化に即応したビジネスモデルへの転換
13) 誘客多角化の実践

12) 観光産業強靱化の推進

5

観光業界の人材不足解消や
労働環境の改善

14) 専門的知見を有する人材確保
16) マスツーリズムから質を重視した施策への転換

15) 観光地力の底上げ

社会文化分野

誇りと
責任ある行動の輪で創る
希望に満ちた
観光まちづくり

6

観光客と地域の良質な接点づくり

17) 顧客とのつながりの選択的強化

18) レスポンシブルツーリズムの推進

7

SDGs等新たな潮流への対応

19) SDGsへの多角的な対応の促進

8

市民協働による
観光まちづくりの推進

20) シビックプライドの涵養
22) 協働による観光まちづくりのための体制づくり

21) 観光まちづくりへの理解・参画の促進

持続可能でより良い社会を求めて世界中の人々がつながるまち
石垣島の未来は地球の未来

主な具体的施策と事業イメージ

基本施策 1 - 円滑な 2 次交通（交通移動サービス）体制の構築 - ICT技術を活用した MaaS の導入検討 - 移動に係る諸手続きのデジタル化促進 	基本施策 2 - 脱炭素型モビリティの推進 - 中心市街地におけるカーボンフリープロジェクトの推進 - エコツアー 等カーボンフリー対応の強化	基本施策 3 - 環境負荷に関する調査研究及び対応策の検討 - エコツアー対象地の適切な利用促進 - 優れたサンゴ礁の保全 - 星空資源の持続的な活用 - 伝統芸能など文化資源の保全・振興	基本施策 4 - 観光地美観向上の推進 - 景観形成を協議する体制の検討、導入 	基本施策 5 観光関連公共施設等の適正な管理	基本施策 6 - 自然や文化、食等地域資源の組み合わせによる魅力的な観光商品づくり - 市街地の魅力度 UP を通じた回遊性の向上 - 姉妹都市や親善友好都市等とのネットワークの活用 - 安全安心なマリナアクティビティの普及広報と裾野拡大	■より具体的な事業イメージ ①(仮称)石垣グルメツーリズム構想の検討 本市ならではの食材を使用したバリエーション豊かなメニューを観光客に提供し、「グルメのまち・いしがき」をアピールします。 ②世界平和の鐘を活用した平和・国際交流イベントの開催 国内外の国や地域に参加を呼びかけ、世界恒久平和を訴える平和の祭典を開催します。 ③(仮称)総合マリナイベントの開催 マリナアクティビティの魅力をもっと多くの観光客へ伝え、安全・安心を徹底して楽しめるさまざまな取組を総合的イベントとして展開します。	基本施策 7 - 観光コンテンツやガイドサービスの高品質化 - 観光客の悪天候時機会損失回避策の検討 - 新石垣空港国内線・国際線の快適性と魅力度向上 - 体験型コンテンツ情報の一元化等アクセシビリティの強化	基本施策 8 - 事業効果検証のための指標設定 - 経済波及効果や市民幸福度に関する指標設定及び測定	
基本施策 9 地域主導型観光（コミュニティツーリズム）の推進	基本施策 1 0 - 長期滞在型観光の推進 - MICE ・アフター MICE の振興 - 官民連携型組織を通じたスポーツツーリズム の推進 - 宿泊施設の多様化促進	■より具体的な事業イメージ ①早朝・ナイトタイム活用型観光コンテンツ創出事業 朝市、朝ヨガ、自然観察や星空観望会など早朝や夜間であっても観光客が参加可能なコンテンツを創出し魅力度向上を通じた長期滞在型観光を目指します。 ②(仮称)サブスクリプション型観光商品創造事業 石垣島への航空運賃や旅行商品の利用に関する定額制度や年間パスポート制度導入を検討し、リピーター獲得を通じた長期滞在型観光を目指します。	基本施策 1 1 - 観光振興と物販（特産品販売）との連携強化 - 宿泊業、飲食業と一次産業のコラボレーション促進 - ICT などテクノロジーを活用した経営改革促進	基本施策 1 2 - 観光事業者の事業多角化（収益構造分散化）促進 「薄利多売型」から「高品質高収益型」への構造転換	基本施策 1 3 - 国内外新規顧客の掘り起こし等発地の多角化の推進 - 海外航空路線新規開拓及び再開 - 嗜好性やライフスタイル等発地以外の属性による多角化の推進 - ブランド戦略の立案	■より具体的な事業イメージ ①台湾人観光客誘客事業 自然、景観、文化など本市の魅力をもっと一層アピールし、積極的に誘客することにより台湾人観光客の数を増やします。 ②空港路線新規開拓及び再開事業 台湾（台北、花蓮）及び香港との航空路線網を継続的かつ安定的に持続できるよう航空会社や関係する機関等への働きかけを強化すると同時に、シンガポール等との航空路線網の新規開設に向けて取組を行います。	基本施策 1 4 - 観光地経営に必要な専門人材の確保 - 有資格者（文化、言語、その他）の育成		
基本施策 1 5 - 観光事業者向け各種研修制度の充実 - 国内各地の 10 代から 20 代の若い世代との連携による人材育成 - 観光事業者のネットワーク構築	基本施策 1 6 - 観光地経営体制の構築 - マーケティングに基づく E B P M の推進 - 観光地経営戦略会議機会の創出 - 観光危機管理計画の実践	基本施策 1 7 - 顧客管理手法（CRM）の導入・運用 - 国内優良既存顧客（リピーター）との関係性強化 - ホストファミリーの認定制度等管理手段の構築 - オンラインによる接点の創出	基本施策 1 8 - 神事、地域文化、市民の暮らし等への配慮に関する理解促進 - 八重山観光のゲートウェイとしての竹富町・与那国町との連携 - 西表島世界自然遺産登録を受けた協力体制の構築 - オーバーツーリズム対策の実践	■より具体的な事業イメージ <u>レスポンスブルツーリズム創造事業</u> レスポンスブルツーリズム（責任ある観光）を具現化し体現することを目指す市民主体のコンテンツ形成に向けた取組を支援します。	基本施策 1 9 - 包摂的で多様性のある観光まちづくりの推進 - 地域課題解決参加型プログラムの造成	■より具体的な事業イメージ <u>サステナブルツーリズム実践事業</u> 地域課題の解決の一助となる活動を組み込んだ旅行商品の造成を行い、関心や興味を寄せる層に対して誘客活動や現地での対応を実施します。	基本施策 2 0 地域学習を通じたインナーブランディングの推進 	基本施策 2 1 - 観光まちづくりに関する市民参加型協議会の創設 - 中高生や一般市民向けの観光まちづくりの普及・啓発 - 市版観光統計の定期発行	基本施策 2 2 - 体制構築に向けた条例等の制定 - 観光まちづくりに関する官民組織間の連携調整

KGIとKPI

本計画におけるKGIとKPIの位置付け

KGI・・・3分野の基本目標がどの程度達成されているかを測る指標

KPI・・・8つの基本方針がどの程度達成されているかを測る指標

基本目標のKGI

環境分野

自然環境や景観と観光振興との調和が図られていると答える市民の割合

70%

経済分野

経済波及効果(直接効果+間接効果)

3,120億円

社会文化分野

観光立市であることに誇りを感じる市民の割合

60%

基本方針のKPI

1

石垣島訪問の目的にカーボンフリー型ツアーへの参加をあげる観光客の割合
官民通じた新交通の導入及び代替燃料の導入率(対前年度比)

30%

5%増以上

2

観光地の自然や景観、観光施設の美観やアメニティ充足度及びサービス内容に関する観光客満足度

70%

3

1日あたり消費単価
域内調達率

30,000円/人

65%以上

4

観光消費額
(1日あたり消費単価¥30,000×650万人泊)

1,950億円

5

直接雇用者数
全体雇用者数

16,250人

26,000人

6

観光客に対して好意的でない感情を抱いていると答えた市民の割合

20%以下

7

SDGsに取り組む観光関連事業者の割合(対前年度比)

5%増以上

8

観光まちづくりに資する活動に参画する市民(中学生以上)の割合(対前年度比)

5%増以上

推進体制

